

# 2022年12月期 第2四半期 決算説明会

2022年8月10日  
THK株式会社  
代表取締役社長  
寺町彰博

本資料に含まれている事業計画、業績予想、経営戦略など将来の見通しに関する事項は、本資料制作時点において入手可能な情報に基づき、THK株式会社の経営者が判断したものです。したがって、環境の変化により、業績や戦略の進捗状況が異なることがあり得ることをご承知ください。また、当資料には決算開示事項以外の参考情報が含まれますこともご承知ください。

# 目次

**I. 2022年12月期 第2四半期  
決算概要**

**II. 主な取り組み**

**III. 2022年12月期 業績予想**

# I . 2022年12月期 第2四半期 決算概要

## 連結売上収益は前年同期比23.6%増加の1,866億円となった

- 新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中、半導体関連の需要の拡大、自動化・ロボット化の進展、EV関連の投資の拡大などを背景に、全ての地域において需要が好調に推移した。
- 産業機器事業は、工場拡張や生産性向上へ向けた取り組みなど、生産能力の増強を推し進めてきたことにより、これらの需要を着実に売上収益へと繋げた。
- 輸送機器事業は半導体などの部品不足に加え、中国の一部地域におけるロックダウンやウクライナ情勢に伴う部品調達難による自動車の減産の影響を受けた。

## 連結営業利益は前年同期比88.9%増加の209億円となった

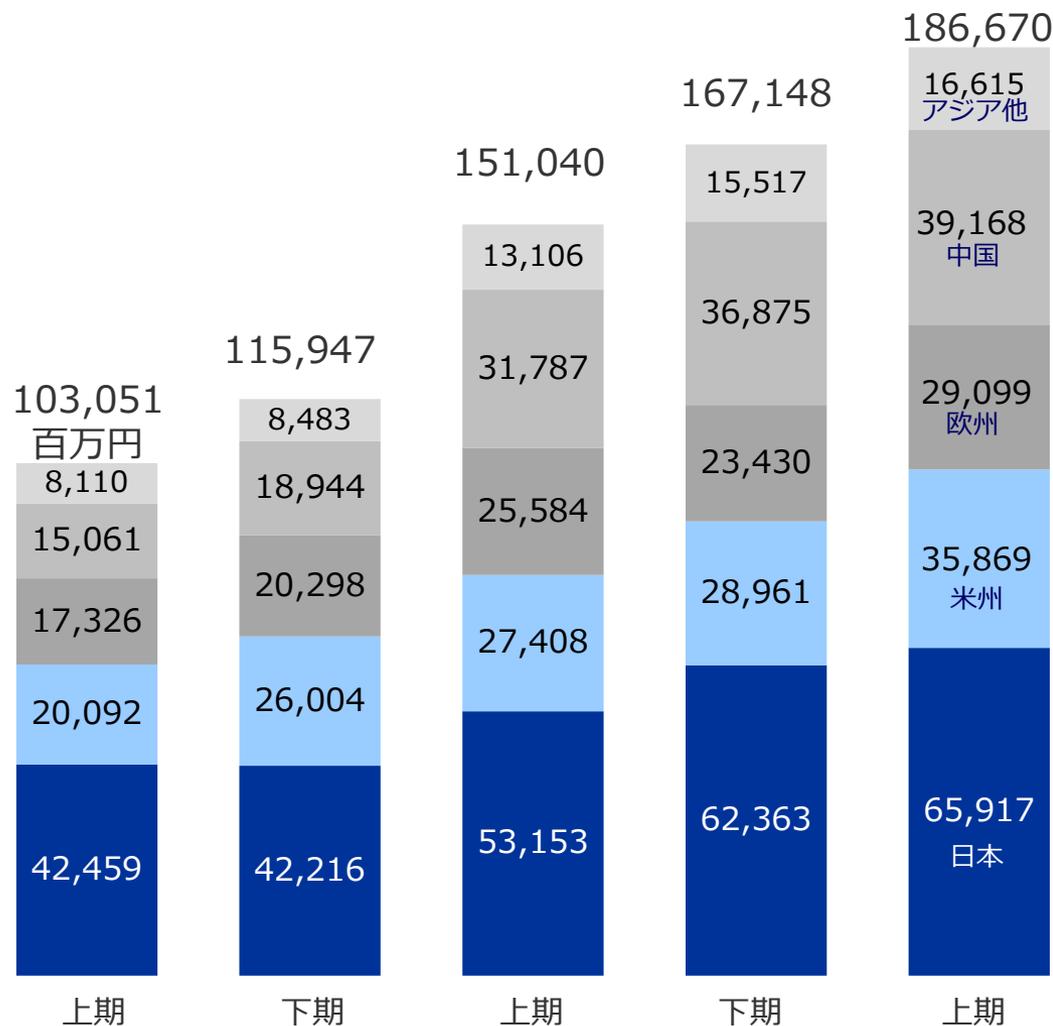
- 産業機器事業は需要が好調に推移する中、輸送運賃や鋼材価格の上昇などの影響を受けたものの、売上収益の増加に伴う数量効果が着実に利益増へと寄与し大幅な増益となった。
- 輸送機器事業は自動車の減産や鋼材価格の上昇などの影響を受け、営業損失となった。

## 売上収益、営業利益ともに計画を上回り、前年同期比で増収増益となった

- 輸送機器事業が厳しい環境であった一方、産業機器事業における好調な需要を着実に売上収益に繋げた結果、期初計画に対して売上収益は96億円、営業利益は19億円、それぞれ上回り、前年同期比で大幅な増収増益となった。

# 売上収益の推移

※伸び率は参考値



<b>アジア他</b>	
●台湾	+20.6 %
●シンガポール	+7.6 %
●インド	+47.2 %
<b>中国</b>	
●工作機械	+20.3 %
●一般機械	+2.8 %
●エレクトロニクス	+10.0 %
●輸送用機器	△18.7 %
<b>欧州</b>	
●工作機械	+46.8%
●一般機械	+20.2%
●エレクトロニクス	+31.5%
●輸送用機器	△5.1%
<b>米州</b>	
●工作機械	+37.0%
●一般機械	+12.5%
●エレクトロニクス	+36.2%
●輸送用機器	+16.2%
<b>日本</b>	
●工作機械	+33.4%
●一般機械	+22.7%
●エレクトロニクス	+45.4%
●輸送用機器	△10.9%

※地域別売上収益は  
所在地セグメントではなく海外売上高ベース  
※業種別伸び率は1-6月累計の現地通貨ベース  
※輸送用伸び率はTHKリズムとTRAの合計値比較

邦貨換算レート

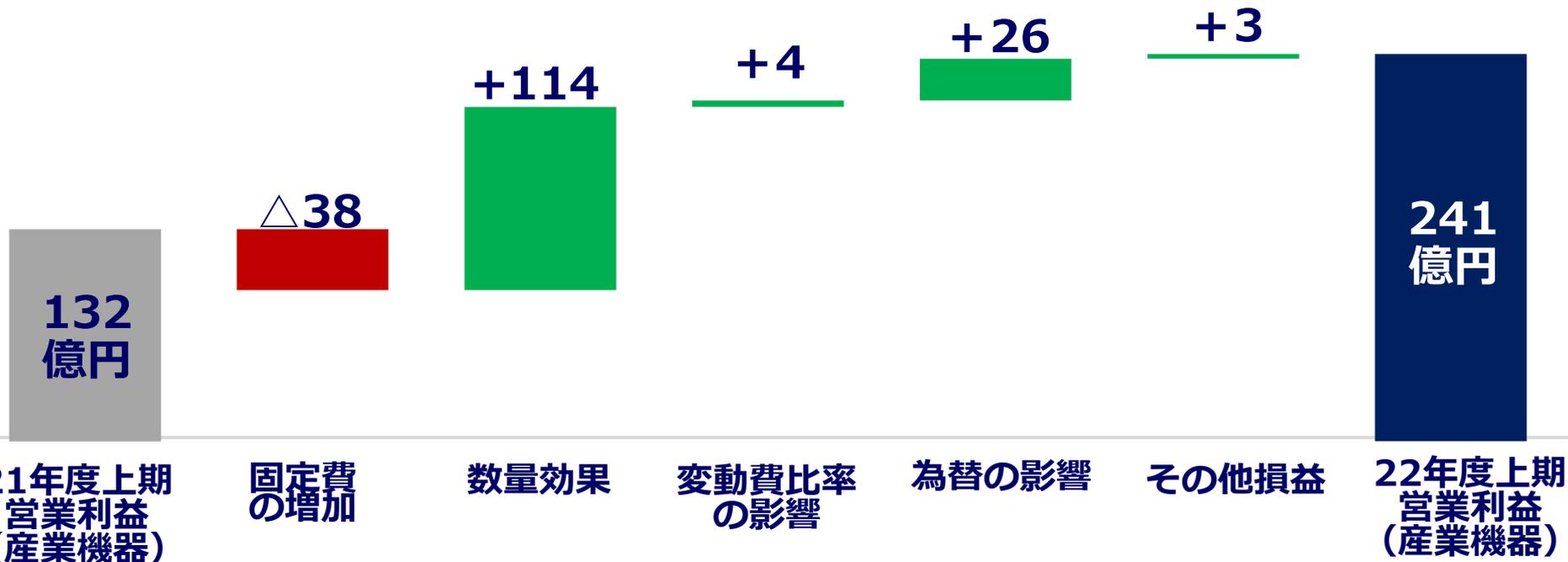
2020/12

2021/12

2022/12

1US\$	108.27	105.31	107.68	111.90	122.98
1EUR	119.24	124.35	129.80	129.90	134.30
1CNY	15.39	15.56	16.65	17.40	18.97

# (参考) 営業利益 増減要因 (産業機器事業)



事業別実績 単位：億円		FY21		FY22
		1H	2H	1H
産業機器	売上収益	1,061	1,257	1,366
	営業利益	132	218	241



# (参考) 営業利益 増減要因 (輸送機器事業)

△22  
億円

△19

+3

+2

+3

+1

△32  
億円

21年度上期  
営業利益  
(輸送機器)

変動費比率  
の影響

数量効果

固定費  
の減少

為替の  
影響

その他損益

22年度上期  
営業利益  
(輸送機器)

事業別実績 単位：億円		FY21		FY22
		1H	2H	1H
輸送機器	売上収益	449	414	501
	営業利益	△22	△26	△32



※輸送機器事業はTHKリズムとTRAの合計値

# 資産・負債/資本の状況

**総資産 550,599 百万円**  
**前期比 +34,513 百万円**

## 現金及び預金 | 前期比 $\Delta$ 8,626百万円

営業CF	8,826百万円
投資CF	$\Delta$ 13,329百万円
財務CF	$\Delta$ 14,869百万円
換算差額	10,745百万円

## 営業債権及びその他の債権 | 前期比

**+13,126百万円**

売上債権回転月数	前期 3.3ヵ月 当期 3.2ヵ月
----------	----------------------

## 棚卸資産 | 前期比 **+10,969百万円**

棚卸回転月数	前期 2.4ヵ月 当期 2.4ヵ月
--------	----------------------

## 有形固定資産 | 前期比 **+15,449百万円**

設備投資	14,393百万円
減価償却費	8,475百万円

## のれん及び無形資産 | 前期比

**+1,311百万円**

## 流動資産

**331,764**

**前期比 +17,841**

## 負債

**202,140**

**前期比 +343**

## 資本

**348,458**

**前期比 +34,169**

## 非流動資産

**218,834**

**前期比 +16,671**

## 流動負債 | 前期比 **+11,027百万円**

- 営業債務及びその他の債務 | 前期比 **+496百万円**
  - 仕入債務回転月数 前期 1.6ヵ月  
当期 1.3ヵ月
- 社債及び借入金 | 前期比 **+10,407百万円**
- 未払法人所得税 | 前期比  $\Delta$ 2,578百万円

## 非流動負債 | 前期比 $\Delta$ 10,683百万円

- 社債及び借入金 | 前期比  $\Delta$ 11,061百万円

## 親会社の所有者に帰属する当期利益

**14,366百万円**

**配当金の支払い 5,018百万円**

**自己株式の増加 5,921百万円**

## 為替換算調整勘定 | 前期比

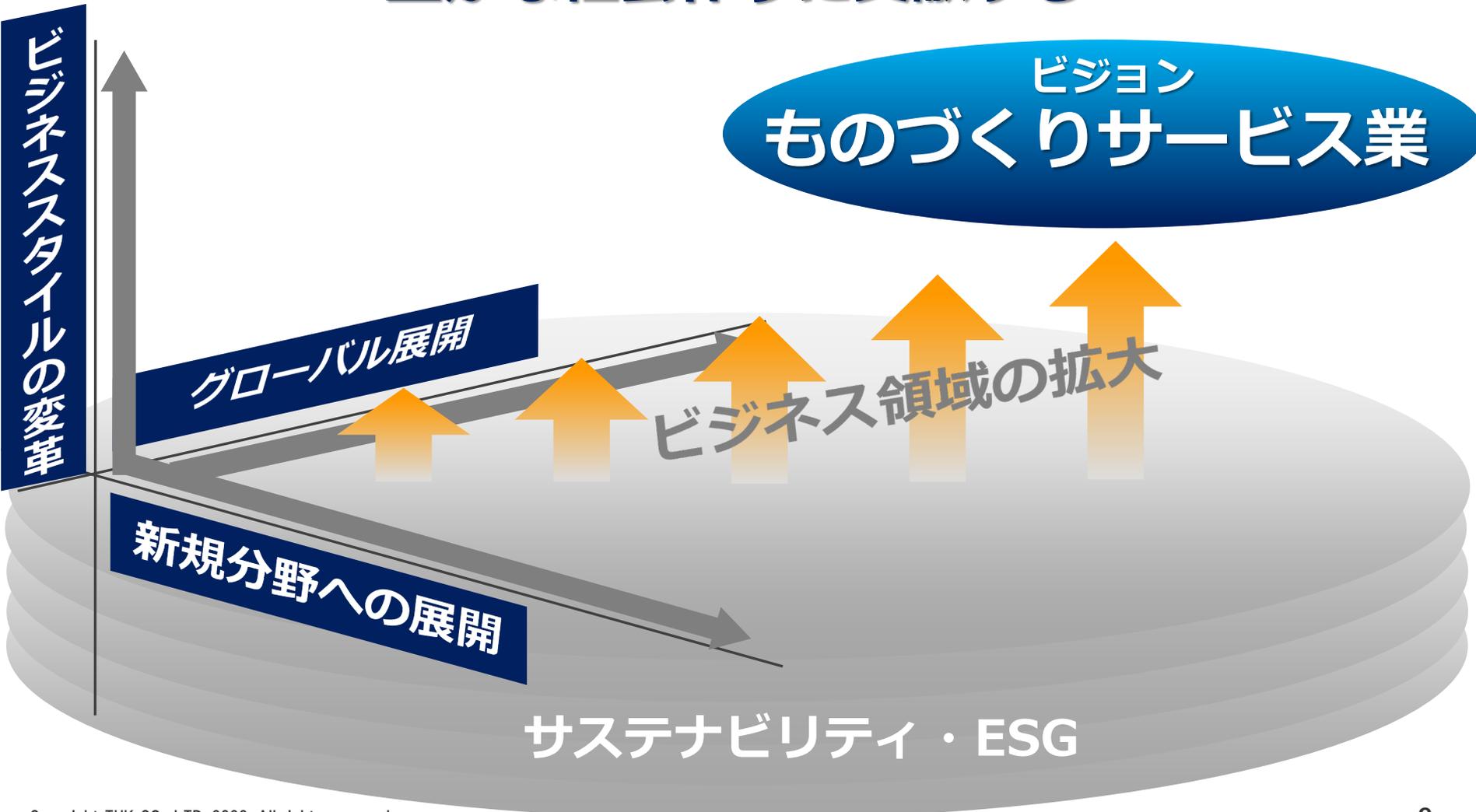
**+30,457百万円**

## Ⅱ. 主な取り組み

# THKの経営

## 経営理念

世にない新しいものを提案し世に新しい風を吹き込み  
豊かな社会作りに貢献する



# 各事業における主な取り組み

## 産業機器事業 + その他

シェア拡大・グローバル生産体制拡充

新製品の開発・加速

DXの推進(Omni THK、OMNIedge)



**FY2022\_1H**

**産業機器事業+その他**  
売上収益 1,366億円  
前年同期比 28.7%増

**FY2022\_1H**

**連結売上収益**

**1,866億円**

**前年同期比**

**23.6%増**

**FY2022\_1H**

**輸送機器事業**

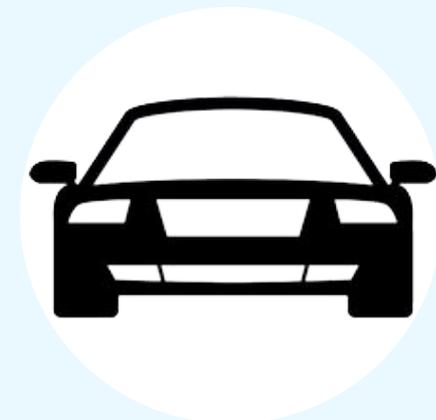
**売上収益 501億円**

**前年同期比 11.6%増**

次世代自動車向け製品拡大

アルミ製品強化

収益性改善



## 輸送機器事業

## 一人当たり売上・生産性 (=収益性) 向上

収益最大化

売上

費用

顧客 (エリア・業種)  
商品・サービス  
単価・数量

固定費  
変動費

設備  
人  
時間  
その他

売上向上策  
(海外展開を前提)

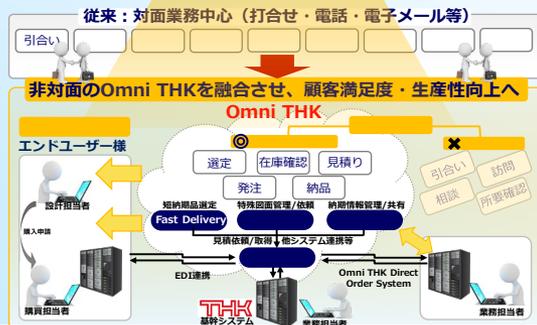
高付加価値業務  
への人員シフト

定型業務  
工数削減

## Omni THKの推進

## デジタル人材の育成

## 各種ICTツールの導入 仕組みの構築



BIツール

CRM RPA/OCR

AI、IoT データウェアハウス

マーケティングオートメーション

etc.

## プライベートクラウドの対応開始



高いセキュリティ・可用性・多台数展開を  
リーズナブル価格で提供

製造業向けIoTサービス  
OMNI edge



### 【導入時のメリット】

- ・ お客様の既存ネットワークへの導入負荷がかからない
- ・ 試験運用のみでなく、本格導入を想定した際の拡張性に優れる

### 【運用時のメリット】

- ・ 高いセキュリティと可用性が担保できる
- ・ サーバー保守やセキュリティ費用など、お客様運用コストを最小化できる

少台数の試験運用から  
複数生産ラインへの多台数の大規模展開を後押し

# 新規分野の開拓

## 新規分野

人手不足・人件費高騰、及びIoTの進展を背景に拡大するサービス産業の省力化をお手伝い

### レストラン



### 物流



### ショップ



### 医療機器



### 半導体製造装置



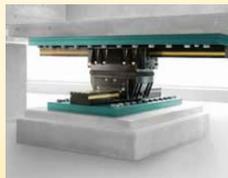
### 再生可能エネルギー



### 鉄道車両・航空機



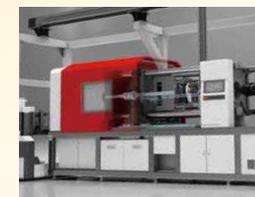
### 免震・制震 Home Automation



### 産業用ロボット



### 一般機械



### 工作機械



## 直動コア技術

## 既存分野

精密化が進む半導体製造装置向けなどに高精度製品を投入

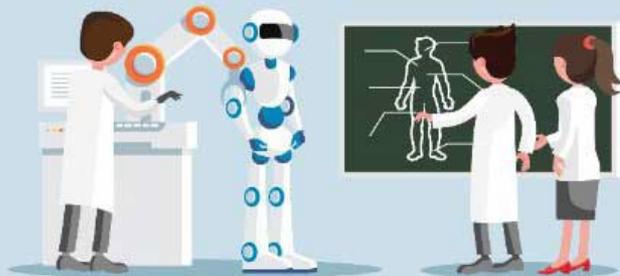
## サービスロボット分野を持続的な成長事業へ

### サービスロボット研究所

第一研究室

第二研究室

第三研究室



基礎研究  
コア技術の蓄積

### サービスロボット事業部

PRSカンパニー

MRカンパニー

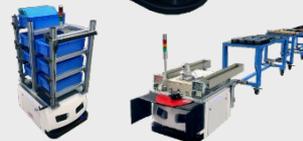
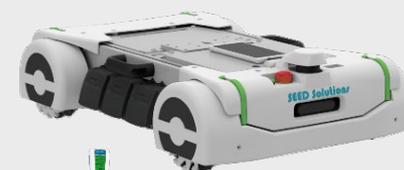
※PRS: Picking Robot Hand Systemの頭文字

※MR: Mobile Robotの頭文字

PRS

SIGNAS

SEED-Mover



ソリューション開発と事業展開  
品質保証体制の強化

最先端の自動化技術を間近で体験できる課題解決型サポート拠点



主力の直動製品、OMNIedgeや、サービスロボット、協働ロボット、搬送ロボット等のデモ機を常設展示し、最先端の自動化技術を間近で体験いただきながらお客様の課題を解決

# グローバル生産体制の拡充（産業機器事業）

## THK常州（中国）

**増築新工場**  
**2022年6月稼働**

品目： アクチュエータ  
ユニット等  
床面積： 約15,000㎡



## THK遼寧（中国）

**増築新工場**  
**2022年12月完成予定**

品目： LMガイド  
アクチュエータ等  
床面積： 約25,000㎡



## THK新潟（日本）

**増築新工場**  
**2022年11月完成予定**

品目： ボールスプライン  
床面積： 約7,500㎡



## THK India（インド）

**新工場**  
**2021年11月稼働**

品目： LMガイド  
土地面積： 約205,000㎡  
第一期床面積： 約37,000㎡



## SAMICK-THK 大邱テクノポリス工場(韓国)

**新工場**  
**2020年11月稼働**

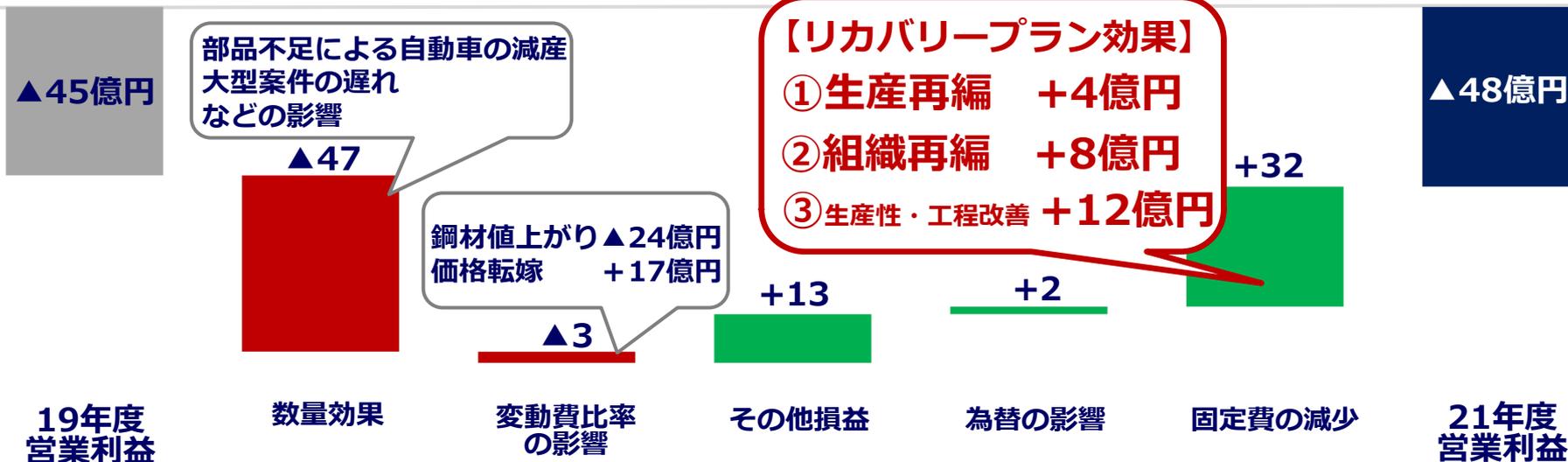
品目： LMガイド  
土地面積： 約50,000㎡  
床面積： 約43,000㎡



## リカバリープラン効果 (21年度 19年度比 増減益要因より)

2019年度実績 売上収益 : 968億円  
営業利益 : ▲45億円

2021年度実績 売上収益 : 863億円  
営業利益 : ▲48億円



リカバリープランを着実に実施・継続

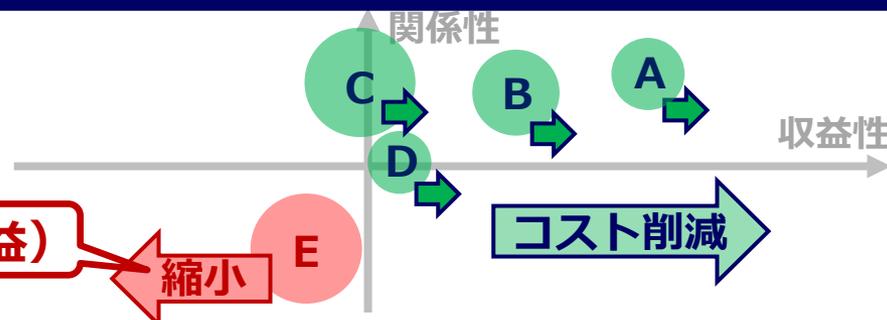
※輸送機器事業は THKリズムとTRAの合計値

## 輸送機器事業の製品ポートフォリオの見直し

● 製品群A,B,C,D ⇒ 収益性向上へ

● 製品群E ⇒ 規模縮小へ

22年度より効果発現予定 (+1億円の増益)



# 輸送機器事業の再編

## 自動車業界の環境変化

自動車産業への  
異業種からの参入

水平分業化

CASEの進展

生産台数減少

サプライチェーンの  
変化

激しい環境変化を踏まえ輸送機器事業を再編し黒字体質を定着

既存製品

リカバリープラン継続・強化

生産再編・組織再編

利益重視運営（縮小厭わず）

不採算製品の返上/生産拠点の縮小・閉鎖検討

産業機器製品の生産

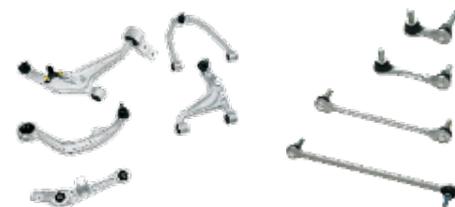
THKリズムでの生産開始(24年度生産金額:約50億円)

次世代製品へ発展

次世代新製品

開発を加速・新規受注拡大

既存製品



産業機器製品



次世代新製品



## 基本的な考え方

企業活動による負の影響の最小化と正の影響の強化により  
社会と企業が、サステナビリティに代表される  
共通価値の創造につながることを踏まえ  
個の最適化だけでなく、全体最適で行動していく

## 直近の主な取り組み

- ・ サステナビリティ推進準備部会発足
- ・ 国連グローバル・コンパクト署名
- ・ THKグループ人権方針制定
- ・ THKグループ贈収賄防止方針の制定
- ・ カーボンニュートラル中長期目標設定
- ・ カーボンニュートラル推進プロジェクト発足
- ・ 株式報酬制度の導入



## 以下のプロセスを経て、マテリアリティの再特定を実施

マテリアリティ候補項目リスト作成

「社会の要請・期待」を社外で評価

「事業への影響度」を社内で評価

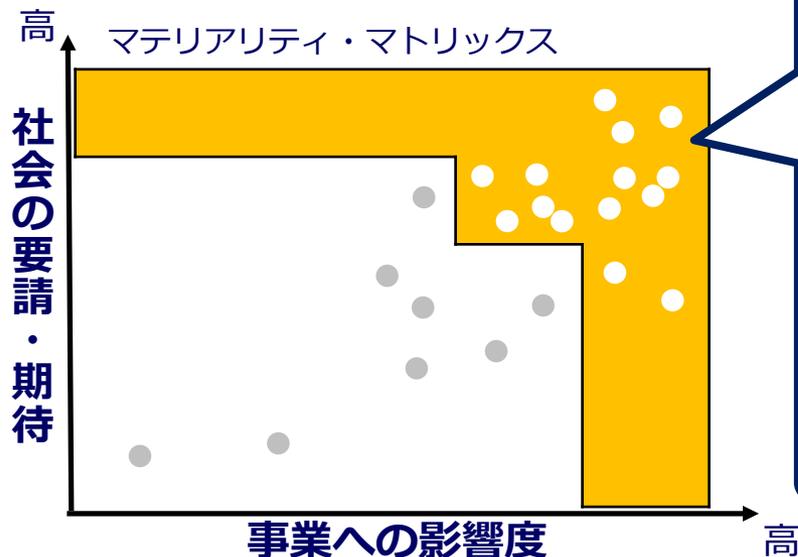
マテリアリティ再特定案作成

取締役会で承認・決定

プロセス

### 再特定したマテリアリティ

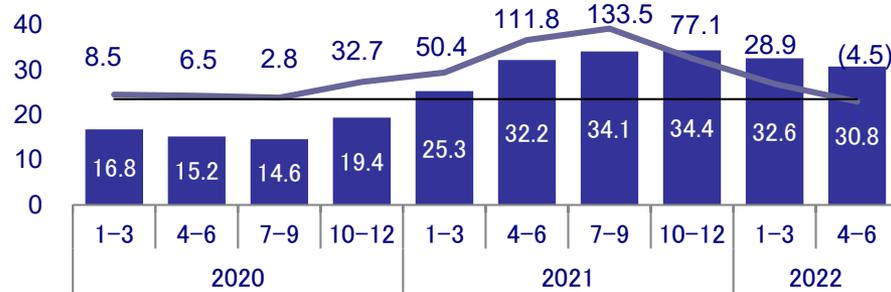
- 豊かな社会づくりとイノベーションを通じた社会課題の解決
- 脱炭素・資源循環社会の実現
- 多様で働きがいのある労働環境の実現
- サステナブルな価値創造基盤の強化



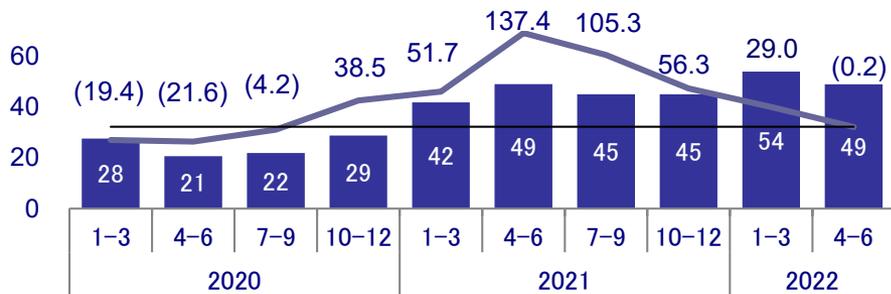
# Ⅲ. 2022年12月期 業績予想

# 地域別受注状況（産業機器事業）

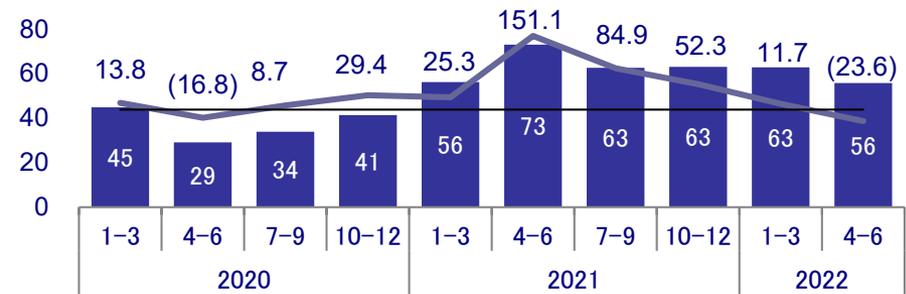
THK国内 \*輸出を除く 前年同期比、10億円



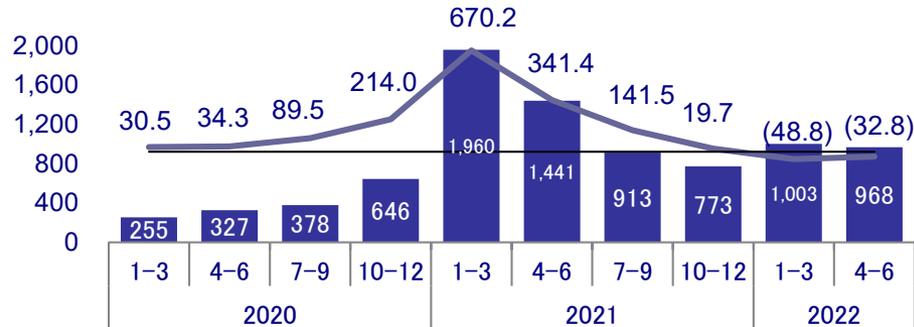
THK Europe 前年同期比、100万ユーロ



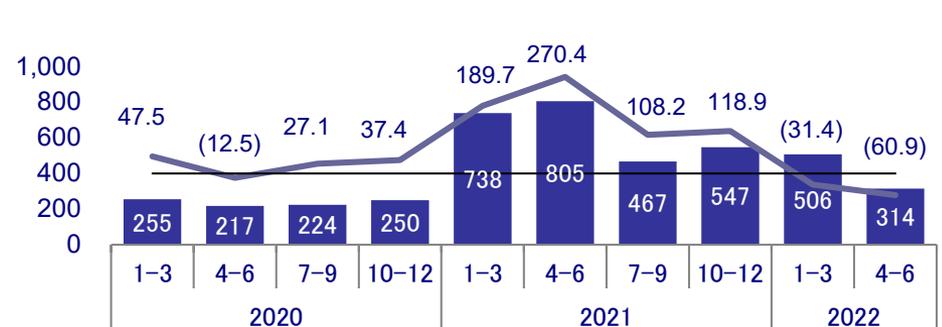
THK Holdings of America 前年同期比、100万ドル



THK (CHINA) CO., LTD. + THK (SHANGHAI) 前年同期比、100万元



THK TAIWAN 前年同期比、100万台湾ドル



# 利益計画（連結）

	2022/12		2021/12
	通期計画	上期実績	実績
<b>売上収益</b>	365,000	186,670	318,188
前年同期比	+14.7%	+23.6%	+45.3%
<b>営業利益</b>	43,000	20,905	30,268
前年同期比	+42.1%	+88.9%	-
<b>税引前利益</b>	43,200	22,291	29,984
前年同期比	+44.1%	+106.2%	-
<b>親会社の所有者に 帰属する当期利益</b>	30,800	14,366	23,007
前年同期比	+33.9%	+91.0%	-

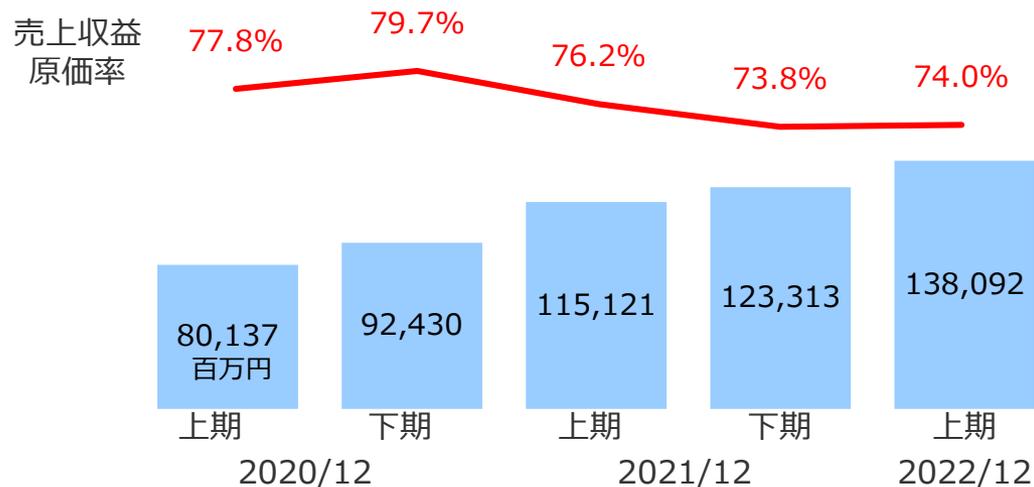
# 利益計画（単独）

日本基準（百万円）

	2022/12		2021/12
	8/9 修正計画	上期実績	実績
<b>売上高</b>	188,000	95,961	167,583
前年同期比	+12.2%	+25.1%	+62.9%
<b>うち国内</b>	116,000	59,054	99,637
前年同期比	+16.4%	+29.5%	+42.7%
<b>営業利益</b>	20,000	11,443	16,718
前年同期比	+19.6%	+126.6%	-
<b>経常利益</b>	29,600	20,369	21,914
前年同期比	+35.1%	+195.1%	+934.6%
<b>当期純利益</b>	23,300	15,988	18,348
前年同期比	+27.0%	+197.8%	-

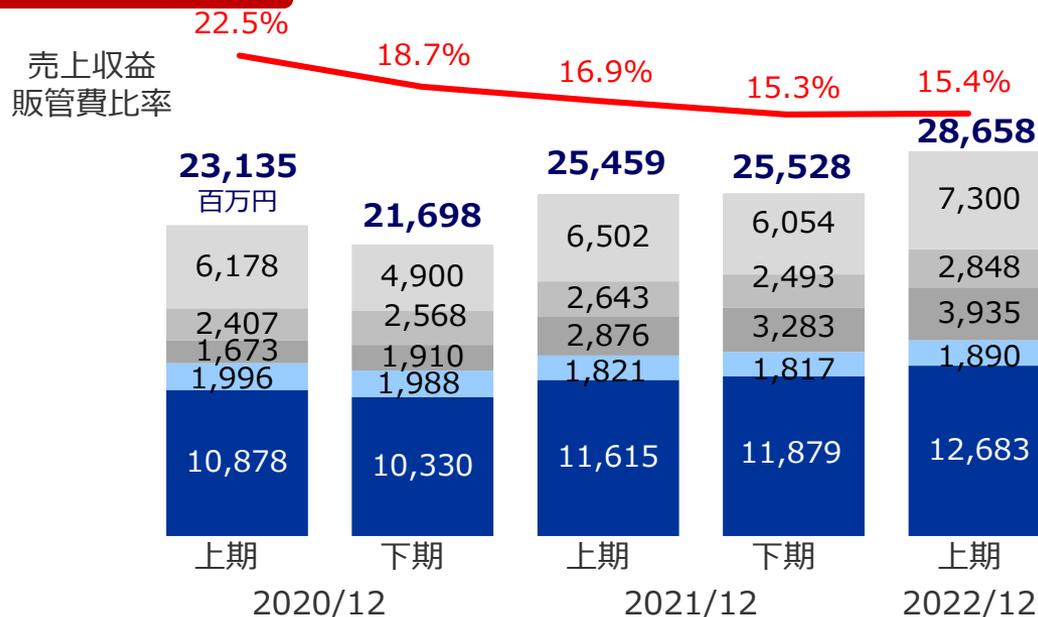
# 売上原価および販管費の推移

## 売上原価



原価率は前年同期比 2.2ポイント低下  
・売上収益の増加

## 販管費

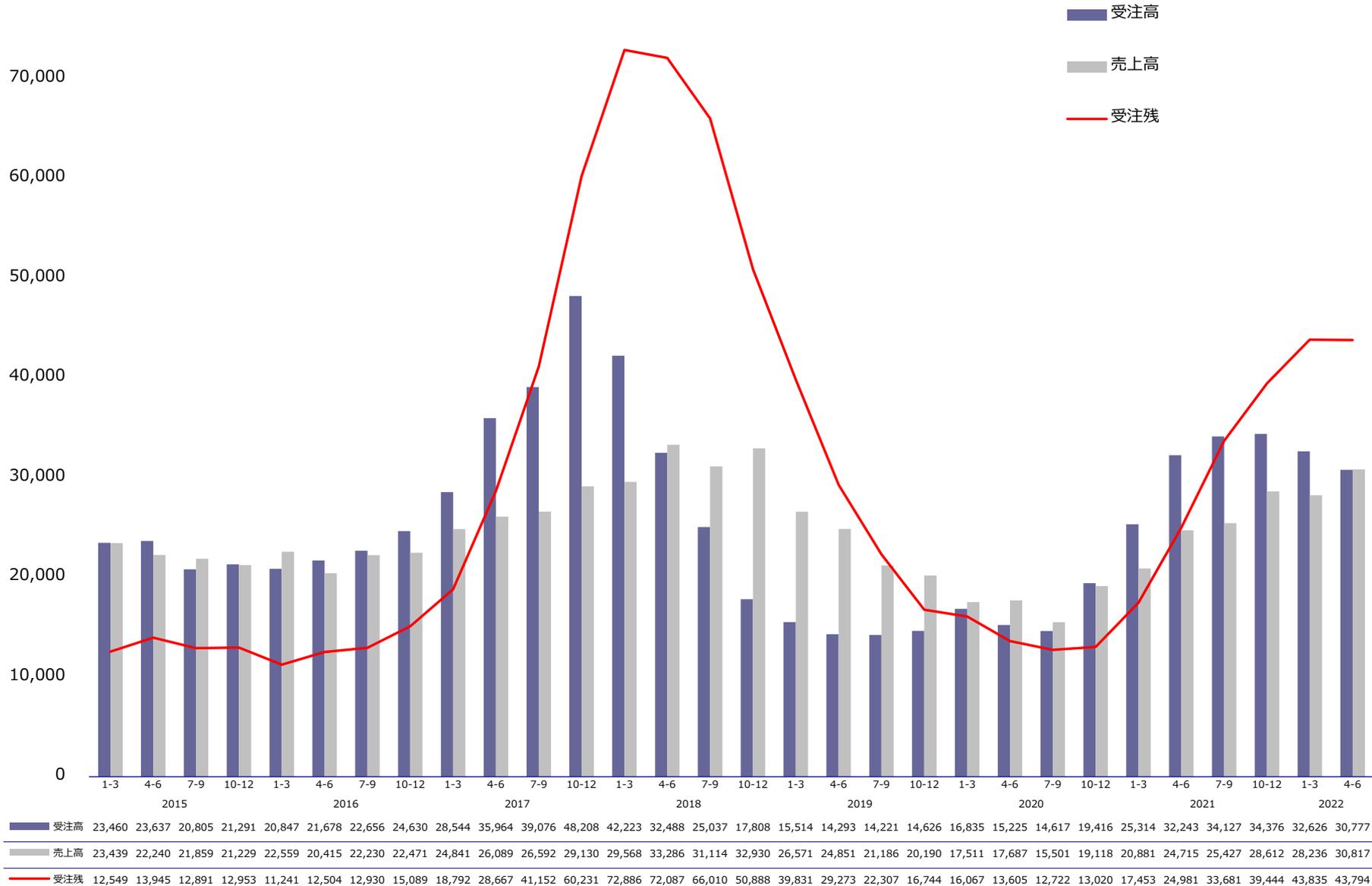


販管費比率は前年同期比 1.5ポイント低下  
・売上収益の増加

# 【補足資料】受注高・売上高・受注残高の推移（単独国内）



(100万円)  
80,000



# 【補足資料】業種別受注高の推移（単独）

(100万円)

12,000

10,000

8,000

6,000

4,000

2,000

0

— 工作機械  
— 一般機械  
— エレクトロニクス

	2015				2016				2017				2018				2019				2020				2021				2022	
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
工作機械	4,370	4,339	3,014	2,875	2,715	2,800	2,575	2,630	3,353	5,879	6,213	8,076	5,976	5,534	4,139	2,489	1,737	1,355	1,324	1,138	1,260	1,350	1,301	2,217	3,123	4,659	4,373	4,515	4,539	3,933
一般機械	3,813	4,183	3,561	3,203	3,682	3,671	3,662	4,083	4,846	6,798	6,730	8,573	7,193	6,021	5,130	3,391	2,485	2,287	2,431	2,482	3,024	2,659	2,891	3,706	5,249	6,175	6,915	6,587	6,210	5,458
エレクトロニクス	3,779	3,628	2,896	3,784	3,485	4,649	4,697	5,867	6,816	6,780	8,142	10,442	8,967	5,425	4,575	2,618	2,793	2,717	2,542	2,950	4,601	4,067	3,369	4,472	5,337	7,230	8,739	8,956	7,773	7,762